

～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

◆VCN°4 ドメーヌ・ド・ヴェイユ

生産地方：ロワール

新着ワイン 1 種類♪

ACクレマン・ド・ロワール 2015（白泡）※熟成期間の長い新ロットが再入荷！

瓶熟期間は 29 ヶ月と前回リリースよりも 1 年長く熟成している！2015 年は、例年よりもムニユピノ特徴が前面に出ていて、シャープな酸と塩辛く滋味ミネラルの旨味がしっかりとある。加えて 29 ヶ月の瓶熟によりエキスイに芳醇さが増し、前回よりもよりワイン全体にハーモニーが生まれている！余韻に残る上品なほろ苦さが心地よく、今回の訪問でホタテのポワレをご馳走になったが、クレマンの心地よい苦味と最高にマッチしていた！

ミレジム情報 当主ミッシェルのコメント

2015 年は、日照りの年だったが、結果的には 2010 年のようなバランスの良いワインが出来上がった！春のスタートは雨も比較的多く涼しい気候で、発芽もやや遅れていたが、5 月から雨の降らない乾燥した天気その後 8 月まで続いた。雨が降らなかったおかげで開花もうまく行き、ブドウの病気はほとんど蔓延することがなかったが、夏の日照りの影響でブドウの成長にブレーキがかかってしまった。収穫が始まる直前に恵みの雨が降り、クレマンに使用するシャルドネは少量の雨のおかげで 50 hL/ha とある程度の収量を確保できたが、その他のブドウは、房の数は多かったものの結局実が大きくなり、粒の小さいまま収穫を迎えた。いざブドウをプレスすると、ジュースは予想以上に少なく、最終的にソーヴィニオンブラン、ムニユピノは例年並みの 35~40 hL/ha、ピノノワールやガメイは 30 hL/ha と例年の 2 割減で終わった。

「ヨシ」のつ・ぶ・や・き



写真① 被害に遭ったソーヴィニオン

これは今年ミルデューの被害に遭ったソーヴィニオンの写真。(写真①) 葉がミルデューにやられ黄色く枯れた部分が多く見られる。それよりもブドウの実が少なくスカスカなのが本当に痛々しい…。2018 年のロワールはミルデューの被害に遭った畑とそうでない畑でははっきりと明暗が分かれてしまった。ミルデューの被害のなかったドメーヌは軒並み大豊作でブドウの熟し具合も良い世紀の当たり年となった。一方で、ヴェイユのように畑全域にミルデューが広がったドメーヌは、これまでに経験したことない猛威にさらされてしまったようだ…。ミッシェル曰く、今年のミルデューの厄介なところは、病気が葉から徐々に実に広がるのではなく、直接実被害をもたらしたことだとのこと。ちなみに、実がダイレクトにミルデューの

被害に遭うと、この写真のように房全体が枯れてしまう。(写真②) さらに、ブドウの実に被害が及ばなくても、梗の根元の部分が病気に侵されると、写真の左右にある黄緑のブドウのように全く熟さないブドウが完熟したブドウと混在してしまう。今回ミッシェルと一緒にまわった畑では、このような熟しがまばらなブドウが混在している樹を何本も見た。ミッシェルが言うに、今回のミルデューは最悪の年と言われた 2000 年を優に超える被害で、ソーヴィニオンブランは 70~80%減を予想している。これはヴェイユ史上最も厳しかった 2016 年の霜の被害に匹

敵する。ミッシェル自身もコルシカのオレンジエッセンスを使ったり、ボルドー液を週2回のペースで散布するなど、ありとあらゆる手を尽くしたが、今回のミルデューは全く動じなかったとのこと。40年以上ヴィニョロンを続けている彼も、これだけ強烈なミルデューの猛威は未だかつて経験したことがないのだそうだ。

それにしても、ヴェイユーから10 kmも離れていないボノームのところは豊作で、こんなにも大きく明暗が分かれてしまおうとは…。2016年の収量減を引きずる中で、少しでもリカバーできたらと祈っていたのだが、結果的に更に追い討ちをかける厳しい事態となってしまった。この苦しい局面を何とか乗り越えてもらいたいと願うばかりだ！

(2018.9.20.のドメーヌ突撃訪問より)



写真② ミルデューに感染した房

※弊社HP「フォト・ギャラリー」より、カラーでサイズの大きい鮮明な写真をぜひご覧くださいませ